

季刊情報紙 2024 夏号

HOPE

「学校・家庭・支援機関をつなぐ」

「HOPE」は、様々な理由により学校へ行くのが困難な子供たちが、将来への希望を持てるよう、支援者どうしをつなぐために様々な情報をお届けする機関紙です。

知っていますか？ネット・ゲーム依存

最近、保護者の方から、「子供が夜遅くまで、ずっとゲームをしている。」「子供がYouTubeやSNSばかり見ている。」といった、「ネット・ゲーム依存」に関する相談をいただく機会が増えています。また、ネットやゲームの長時間の利用が、登校しぶりや不登校の原因になっている状況も見られます。

(1) ネット・ゲーム依存とは？

そもそも「ネット依存」や「ゲーム依存」とは、何でしょうか？世界保健機関（WHO）が2018年に発表した国際疫病分類の第11版（ICD-11）によると、ネット依存をゲーム障害ととらえたその定義は、次のとおりです。

○ゲーム障害とは、持続または反復するゲーム行動で、以下の4つの症状を示す。

- ①ゲームのコントロールができない。
- ②他の趣味や活動より、ゲームを優先させる。
- ③(ゲームにより)問題が起きているにもかかわらず、ゲームを続ける。
- ④個人、家族、社会、教育、職業やその他の重要な機能に著しい問題が生じている。

(2) 児童生徒への指導や家庭への啓発

このような「ネット・ゲーム依存」の状況にあるかどうかを調べるには、独立行政法人国立病院機構久里浜医療センターのホームページ上でできる「ゲームズテスト(GAMES test)」や「インターネット依存度テスト」が参考になります。これらのテストはネットやゲームにどのくらいのめり込んでいるかを調べるものです。「ネット・ゲーム依存」の未然防止のために、各学校においてこれらのテストを活用するのも有効な手立ての1つです。

また、ネットやゲーム依存については、児童生徒への指導だけでなく、保護者への啓発を、参観日、懇談会やPTA行事等の機会をとらえて、計画的に進めていくことが必要です。これから夏休みにかけては、特にネット・ゲームの利用時間が増えることが予想されます。この時期だからこそできる取組を、各校において検討していただきたいと思います。

(3) わが家のネットルールづくりキャンペーン

竹原市教育委員会では、昨年度より「わが家のネットルールづくりキャンペーン」を展開しています。各家庭でネットやゲームの利用に関する時間やルールについて話し合うことで、子供たちがネットやゲームの利用状況や利用方法を見直す機会となるよう意図しています。今年度は、7月22日(月)から31日(水)までの10日間を、キャンペーン期間として設定しています。

今回のキャンペーンでは、家族がみんなでネット等の使用上のルールを「標語」として作成することで、家族ぐるみで日常的に「ネット・ゲーム依存」の防止を意識していただくよう考えています。「ネット・ゲーム依存」の防止に向けて、このキャンペーンの家庭への周知を、各学校において積極的に進めていただきたいと思います。

令和6年7月4日発行：竹原市教育委員会